

平成 19・20 年度 JSL 実践事例カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 久留米市教育委員会 】

1 学習活動の実践

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 1 学年 数と計算	
(2) 単元名 「ものと ひとの かず」	
(3) 対象児童の実態 (2 人)	
A 児	第 1 学年 国籍 (日本) 母語 (ルーマニア語) 在籍年数 (8 か月)
	- 日本語の力 全ての平仮名を読むことができるが、つなげて単語として読むには、時間がかかる。平仮名を全て書くことができるが、考えながら一文字ずつ書いている。聞き取りで書かせるときには、単語で言うと、それを自分で言いながら書くことができる。発話は流暢ではないが、日本語でコミュニケーションができる。 - 在籍学級での学習参加の様子 個別に指示を出されたときには活動することができる。黒板を見ながらノートに写すことはできるが、自分の考えを書くことは難しい。 - 家庭での学習環境 家庭でも、母親が熱心に教えている。母親も流暢に話せるわけではないので、ほとんど一緒に学習をしているような状況である。また、算数に関しては、ルーマニア語で教えているため、意味だけの理解はできているが、言葉での理解はできていない状態である。
B 児	第 1 学年 国籍 (日本) 母語 (タガログ語) 在籍年数 (8 か月)
	- 日本語の力 全ての平仮名を読むことができるが、つなげて単語として読むには、時間がかかる。平仮名を全て書くことができるが、考えながら一文字ずつ書く。発話は流暢で、日本語でのコミュニケーションができる。ものの数え方は、練習しており、「にん」「だい」「こ」は身に付いている。 - 在籍学級での学習参加の様子 まわりの友だちのサポートも受けながら、全体に対する指示で活動することができる。黒板を見ながらノートに写すことはできるが、自分の考えを書くことは難しい。 - 家庭での学習環境 家庭では、姉と一緒に宿題に取り組んでいる。また、夏休み前から、算数教室にも行って、平仮名やたし算・ひき算の練習をしている。
(4) 目標	
◇算数科	
○ 文章問題を読んで、ある数量を他の数量に置き換えて考えることができるとともに、式を立てることができる。	
◆日本語指導の目標	
○ 文章問題の言葉から、たし算かひき算を区別することができる。	
○ 答えに適切な数詞を使うことができる。	

2 学習活動

指導者 日本語指導担当			
全体の時間数（2 時間）			
学習活動の状態	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
①「ひとつずつ」を使って、ある数量を他の数量に置き換えて解く問題を考えさせる。	取り出し	・ものの数え方を確認する。	◇「ひとつずつ」の意味を確認する。 ◆文章問題を一文ずつ提示する。
②「1 本ずつ」「1 こずつ」などを使って、ある数量を他の数量に置き換えて解く問題を考えさせる。	取り出し	・ものの数え方を確認する。 ・「ひとつずつ」の意味を確認する。	◆文章問題を一文ずつ提示する。 ◇状況を表す絵を提示しながら問題の意味を確認する。

3 成果

①対象児童に対する成果

- 単元と関連させて、絵を見せながら、ものの数え方を練習したことで、ものによって数詞が変わることを意識させることができた。普段の生活の中でも、数えるときに数詞を意識して使うようになった。特に B 児は、ものの特徴（長い、動物など）に着目して数え方を考えることができていた。
- 学習の導入で、実物（りんご、カード）を使いながら、先生たちに「1 つ（1 枚）ずつ」渡させたことは、「1 つずつ」の意味をよく理解させることができた。また、この活動を学習の導入で行ったことにより、子どもたちの緊張もほぐれ、楽しく学習を進めることができた。
- 問題文ごとに具体物を用意したことは、子どもたちの興味を持続させることができた。
- 問題 1・3 において、カードや子どもの絵を動かしたことは、「1 つ（1 人）ずつ」を視覚的に捉えることができ、問題文の状況を理解させるのに有効であった。
- 教科書では「乗り物の券」となっている表現を、子どもたちに身近な「カード」に置き換えたことにより、言葉におけるつまずきを避け、問題文の内容を考えさせることができた。
- 一文ずつ提示し、声に出して読ませたことにより、「読んでみよう」という子どもの意欲を持続させることができた。

②在籍学級児童

＜A 児＞周りの友だちとのコミュニケーションがとれるようになり、学級での学習中に、周りの友だちがサポートしている姿がよく見られるようになった。指示も少しずつ理解できるようになり、自分の考えを言いながら、文字で書き表そうとするようになった。算数の文章問題では、自分で読み取することは難しいが、問題文を読み聞かせると、「合わせる・全部で・とると」などのキーワードから、たし算／ひき算を使い分けることができていた。

＜B 児＞発表は入学当時からよくしていたが、音読が上手になったり、黒板を写すのも速くなったりしている。それをまわりの子どもたちが「B 君、上手だね」「書くの速いね」と声かけをしている姿をよく見かけるようになった。また、算数の計算も少しずつ速くなり、文章問題の意味について「～でしょ？」と聞いて確認するが、よく理解できるようになってきた。日本語でのコミュニケーションがよくなるようになってから、教室でのお手伝いも積極的に取り組むようになった。

③学習環境（学校・保護者等）

- A 児や B 児の様子や、学習の進め方などについて、日本語指導担当者が担任と情報交換する機会が多くなった。
- 日本語指導担当者、保護者や担任と連携して、より効果的な家庭での学習（宿題）を提供することができるようになった。

4 課題

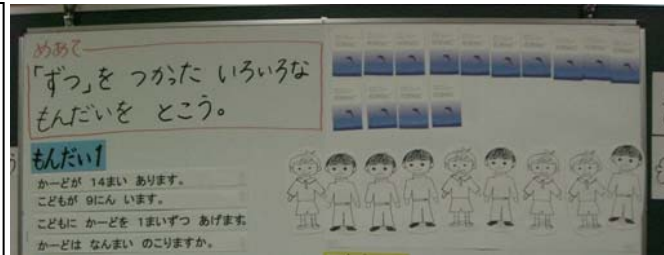
- 問題文を読ませて絵で状況をつかませたが、絵を見せながら状況をつかませた後に、問題文を読ませた方が、問題文の意味をより理解させることができると考えられる。
- 問題 3 は問題 1・2 とは異なり難しいので、問題 1・2 だけを行い「1 つずつ」を含んだ簡単な問題に習熟させるとよい。
- 問題 3 では、教科書の問題文を簡略化したために、理解が困難になっていた。状況を表す大事な文「写真をとります」を削除したために、状況把握が難しくなった。第 1 学年の教科書は、精選して文章題を作っているため、問題文を簡略化するよりも、短く区切りながら提示するとよい。

<参考資料>教材・教具

【本時学習の問題・板書】

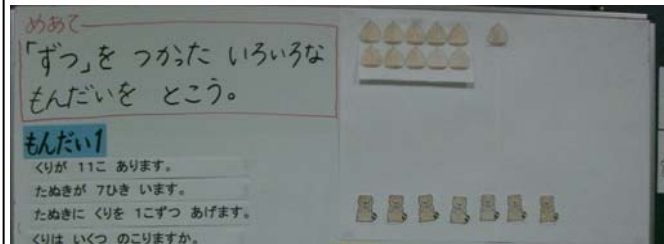
【もんだい1】

かーどが 14まい あります。
こどもが 9にん います。
こどもに かーどを 1まいずつ あげます。
かーどは なんまい のこりますか？



【もんだい2】

くりが 11こ あります。
たぬきが 7ひき います。
たぬきに くりを 1ぽんずつ あげます。
くりは なんぽん のこりますか？



【もんだい3】

いすが 6つ あります。
いすに ひとりずつ すわりました。
いすの うしろに 7にん たちました。
ぜんぶで なんにん いますか？

